

MEIKAI UNIVERSITY

URAYASU CAMPUS | ALUMNI ASSOCIATION

vol.24
Dec.2018

明海大学
浦安キャンパス
同窓会報

SPECIAL ISSUE

MEIKAIブランディングサポートプロジェクト

夢プロジェクト×bayfm「あしたの音楽」

～オリジナル楽曲作成+明海祭公開収録コラボレーション～

同窓会各支部でのサポートプロジェクト事例

明海から世界の海を目指す

～明海大学女子ヨットチームの挑戦～



CONTENTS 17

CLUB

ヨット部

本年は1年生11人を迎え、部員総勢27人で恒例となった春季特別強化合宿を実施。新入生を含む全員のレベルアップを図った。ここ数年、女子の強化が進み、2018年女子の目標設定は「春・秋関東学生選手権女子レース（女子インカレ）の完全制覇」と「女子インカレの優勝」、男子含むチーム目標は「関東4位内」「全日本学生女子ヨットレース（全日本女子インカレ）4位内入賞」という、高い目標設定とはなったが、上昇機運の中、春インカレ本番を迎えることになった。4月、学生にとっては大学生活の一番重要な時期に、「関東学生春季ヨット選手権」が葉山沖で開催された。先陣を切って行われたのが女子インカレである。女子470級には19大学27チーム、スナイプ級には14大学18チームが出場し、早稲田大学・日本大学・法政大学の強豪校を破り、本学が470級優勝・スナイプ級優勝、併せて総合優勝と「春女子インカレ完全制覇」を成し遂げた。続く「関東学生ヨット選手権大会団体戦」では、女子の勢いをそのまま受け、470級で早稲田大学に次ぐ2位・スナイプ級6位・総合4位に入賞。春インカレは男女共に素晴らしい成果を上げ、本学にとっては平成26年以来の高成績となった。

秋のインカレは春インカレの成績により、本年もシード校として決勝からの出場となった。台風が接近する中、レース初日が勝負であると判断し、積極的に展開させ、明海大学がレースを牽引する策をとった。470級3レース実施・スナイプ級は2レースのみの実施で、2日目はノーレースとなった。結果、470級2位・スナイプ級1位・総合優勝と、「春秋の完全制覇」を成し遂げ、9月愛知県蒲郡で開催された「全日本女子インカレ」に駒を進めた。結果、470級7位・スナイプ級2位、「総合準優勝」で2018年のインカレを終えることができた。

10月26日から11月5日にかけて、全日本女子インカレと同会場（愛知県蒲郡海陽



ヨットハーバー）で全日本学生ヨット選手権大会が開催された。折からの秋雨前線の影響で風が安定せず、強風対策をしていたチームにとってはかなり厳しい戦いとなった。全国各水域の予選を突破してきた24大学が各校の名誉をかけ熾烈な戦いを繰り広げた。初日、本学は波に乗れず最悪のスタートであったが、徐々に追い上げ、470級5位・スナイプ級11位・“総合6位”に入賞することができた。

関東水域から8校出場した全日本インカレであるが、関東勢の中では、早稲田大学・日本大学・慶應義塾大学・明海大学と4番手の順位をキープできたことは特筆できる。（監督 國府田由隆）

CONTENTS 18

INFORMATION

■ ビジネス交流会開催予定

同窓生の輪を人的資源として有効に活用・共有し、ビジネスにおける問題解決や自己の向上を目的とした実践的交流会です。同窓生皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

ビジネス交流会

日時：2019年2月又は3月予定
（※詳細は同窓会Facebookならび@LINEにて追って告知致しますのでご確認ください）
場所：都内 参加費：¥2,000円 *学生無料
対象：会社経営者、個人事業主及び起業を目指している同窓生
同窓生同士のビジネス的な繋がりを求めている方
就活のためのスキルアップを目指す学生

■ お申込み方法

表題に「ビジネス交流会参加希望」と記し、「氏名」「学籍番号」「携帯番号」「業種・会社名」を明記し、info@meikai.com までお申込みください
*日時、場所の詳細は、明海大学浦安キャンパス同窓会HPやオフィシャルFBでご確認ください

詳細・最新情報はここから

明海大学浦安キャンパス同窓会 公式Facebook
<https://www.facebook.com/Meikai.dosokai>



■ 「コミュニティサポート事業」

～同窓生の集まりに最大6万円の支援

詳細は同窓会HPをご参照ください。

■ 緑風会（不動産学部支部同窓会）からパーティーのお知らせ ～緑風会から名刺交換会のお知らせを致します。他学部の方の参加も可能です～

不動産関連業のみならず不動産関連業以外の業種にも就業されている方の情報交換・名刺交換の場です

開催日時：2019年2月15日（金） 19時30分～21時30分
開催場所：プロント イルパール 東京国際フォーラム店（B1F）
会費：男性3,000円 女性2,000円（同窓生のみ。家族は不可）

■ お申込み方法

下記メールアドレスに必須項目4点を明記して送信ください
e-mail:r.kouryu2015@gmail.com
・タイトル「緑風会パーティー参加希望」
・必須事項 ①氏名 ②学籍番号（宛名ラベル参照）
③携帯電話 ④現在の職業
・締切日：2019年2月8日（金）

※申し込み多数の場合、先着順とさせていただきます

お申し込みはこちらから→



■ 引越しや結婚など、同窓会会員登録情報に変更はありますか？

会員の皆さまの情報を把握するために、ホームページ上で登録変更受付をしています。会員情報は会員の皆さまへの会報や、お知らせをお届けするための連絡先となるものです。情報が変更になった場合は速やかに変更をお願いいたします。

同窓会ホームページ

<http://www.meikai.com/>
「会員登録情報変更」



MEIKAIブランディングサポートプロジェクト

夢プロジェクト×bayfm「あしたの音楽」

～オリジナル楽曲作成+明海祭公開収録コラボレーション～



bayfm 78.0MHz 「あしたの音楽」
毎週日曜日 20:30～20:57 放送中 パーソナリティー：Shusui/曾根由希江
ashita@bayfm.co.jp ◆ SNS Twitter & Facebook @ashitanoongaku

同窓会では大学のブランディング強化を推進する“MEIKAIブランディングサポートプロジェクト”を2017年より始動させている。今回その一環として、夢プロジェクト×bayfmコラボレーションによる企画が本年度の明海祭で実現した。始まりは北原淳同窓会会長が偶然耳にしたラジオ番組からだった。



「ちょうど1年前の秋、bayfmを聴いていたら『あしたの音楽』という番組でオリジナル曲を作る企画をやっていました。夢をつかもう、というテーマのもと、『Catch the Dream』という曲がちょうど完成披露されていた回で、曲を聞いた瞬間、これはいい！と直感的に感じました」

楽曲に共感した北原会長は仕事で繋りのあったbayfmの方に連絡。感銘を受けた旨を伝えた。すると偶然にもこの番組のディレクターである濱二秀昭氏が明海大学出身者だということが分かる。さらに濱二氏は遡ること14年前、北原会長にコンタクトを取ったことがあった。インターネットで母校に関するネガティブな情報を目にした濱二氏は、母校のために何かできないかと考えていたところ、自宅に送られてきた同窓会報に連絡先を見つけ事務局に連絡したという。その時はタイミングが合わずに会えずじまいだったが、14年後、今回の偶然をきっかけに2人は顔を合わせるようになった。

「番組内でちょうど、夢」に関する企画を進めていたので、北原さんに明海大学の同窓会会長という立場で番組に出ていただき、明海大学浦安キャンパス同窓会が企画する夢プロジェクトについて話していた。



パーソナリティーのShusui(左)さんと曾根由希江さん(右)



明海大学OBで番組ディレクターの濱二秀昭さん(経済学部7期)

ただ、最後に番組で1曲作ろうという話になったのです」

番組のパーソナリティーを務めるShusuiさんと曾根由希江さんは、共に音楽活動を行っていたが、今回、夢プロジェクトのコンセプトを理解した上で「あしたも明日も」というオリジナル楽曲を書き下ろしてくれた。さらに、番組の公開収録という形で吹奏楽部とジャズオーケストラ部との共演が決まる。当初は話を受けた両クラブの部員たちから、「自分たちの演奏はオンエアできるレベルにない」と出演を躊躇する声も上がったというが、周囲の後押しや、なにより、夢」というキーワードがあったことで、全員が同じ方向を向き、ひとつになってプロジェクトを完遂する事ができた。

明海祭2日目の11月4日、ついに新曲「あしたも明日も」を披露する日が来た。番組パーソナリティーのお二人に加え、10代を中心とした人気を誇るシンガーソングライターの前田の井上苑子さん、和製ステイジーのワグナーとの呼び



わたなべひろさん

声も高い弱冠14歳のシンガーわたなべひろさんをゲストに迎えるとあって、会場となった30周年記念館チューデントホールには多くの観客が詰めかけた。

オープニングは、コラボのきっかけとなった「Catch the Dream」。Shusuiさんと曾根さんもパーカッションで参加。吹奏楽部部員と共に明るくキャッチーなナンバーを披露。その後はトークを挟みながら、メジャー曲メドレーで会場を盛り上げていく。ゲストの前田の井上苑子さんの弾き語り、わたなべひろさんの力強いパフォーマンスに会場が沸く。後半は吹奏楽部に代わりジャズオーケストラ部が登場。わたなべち

ひろさんとの共演による「A列車で行こう」にはじまるジャズのポピュラーメドレーで会場の一体感がピークに。そしてついに、この日のために書き下ろされた新曲「あしたも明日も」がお披露目となった。ゆつたりとしたサウンドに乗せ、明日も明日も笑っていこうという想いが奏でられていく。最後は参加アーティスト全員のパフォーマンスによる「Catch the Dream」の、大盛り上がりでの公開収録は終了した。



井上苑子さん

ひとりのちよとした働きかけが、思いもよらない同窓の輪に繋がりが、広がっていく。毎年卒業生が社会に増えていくほどに、この明海ファミリーの輪と繋がりの可能性の芽は確実に大きくなっていく。この中で、同窓生の皆さまも一度、ご自身の興味関心の延長に「もしかしら明海大学の繋がりがあってもいいかな」と思っているか、軽い気持ちで意識してみたいか、がだるう。同窓生一人ひとりのこうした想いと行動が募っていったら、MEIKAIブランドの向上・サポートという同窓会の使命は必ず結実していく。今回のコラボレーションは、まさにそんな「夢」を現実に変えていく可能性を感じさせる企画となった。



CONTENTS 01-2

2018夢プロジェクト 審査会&報告会



プロジェクト報告を行う秦絵莉香さん

明海祭期間中の11月4日、「夢プロジェクト審査会&報告会」が開かれた。夢プロジェクト(夢プロ)は、学生の夢の実現に向け同窓会が上限100万円の資金援助・サポートを行い、学生自身の成長のみならず明海大学自体のブランディングにも寄与していく支援プロジェクトである。

まず前年度採用された「スポーツの力」プロジェクトの報告が、立案者の秦絵莉香さん(ホスピタリティ・ツーリズム学部4年)によって行われた。彼女の出身地である大分県玖珠町は、人口減で7つあった中学校が統廃合、新設される1校にまとめられるという。今まさに全国で地方が抱える課題に直面している。ただ、既存の中学校にはプールが一つもなかったが、新設校には立派なプールが設置される。秦さんはこのことをポジティブにとらえ、地域の活性化のきっかけにしようという逆転の発想によるプランを立案。この「プール」をハブとし、オリンピックで活躍するアスリートを地元へ招き、

町の人を巻き込み交流していく中で、住民・町としての一体感を向上させ、地域の活性につなげていこうという試みである。

経験や運動能力の区別なく始められる種目ということで、「ダンススイミング」が選ばれた。元オリンピック選手の小谷実可子さんと岩崎恭子さんも現地に足を運び、さらに映画「ウォーターボーイズ」等の指導も行った不破央さんがメインに実技指導。付き添いの家族、見学に訪れる周辺住民、自治体まで巻き込み、活動の輪が広がっていった。

プロジェクトの区切りとなった発表会は大成功を収め、その様子は地元新聞3紙、テレビ局4局に渡り大きく取り上げられた。しかし秦さんにとって、ここまではあくまでも第一歩。この活動を続け、楽しく健康に過ごせる故郷の町を盛り上げていきたいとのこと。彼女の考える地域活性とは、何より継続して町の人々の心をつなぎ続けていく活動なのだ。

続けて日本人学生と中国人留学生の混成グループ「チーム・ルーキー」による今年度のプレゼン。留学生として部屋を借りる時の不動産情報の意味や日本独特の慣習、役所での手続きの難解さなど、来日して直面する場面で本当に役立つ言葉の学習を、クイズなど交え楽しく勉強できる日本語学習サイト(Webとアプリで展開)で実現しようというプラン。

情熱のあるプレゼンテーションは好印象も、「夢」や「創りたいもの」に具体性が乏しく、今年度の採用は見送られた。

MEIKAIブランディングサポートプロジェクト ～ 同窓会各支部でのサポートプロジェクト事例 ～



「知人に入学を勧めたい、そして、自分の子供を入学させたい大学になって欲しい」という同窓生共通の思いを「M. Aビジョン」と称し、同窓会活動の柱としているが、これを受け、新たに策定された「MEIKAIブランディングサポートプロジェクト」。前号の会報ではその全体概要をお伝えしたが、実際に各支部での活動が始まっている。今回は経済学部、不動産学部各支部での実際の活動の様態を各支部代表に伺った。

経済学部支部サポート事例

経済学部支部では、同支部代表である鮫島伸一氏を中心となり、イベントを通じて明海大学をアピールするプロジェクトを行っている。明海大学の学生が企画協力という形で入り、これまで3つのゲーム関連イベントを成功させてきた。

2017年5月に実施したサバイバルホラーゲーム「バイオハザード」のエンターテインメント型ファンランイベント「BIOHAZARD ZOMBIE RUSH」では、産学連携プロジェクトとして企画会議の段階から経済学部の学生数名が入り、活発に意見交換を行った。学生にとって良い経験になったのはもちろん、大学をアピールする絶好の場となった。BIOHAZARD ZOMBIE RUSHはコンテンツ元であるゲーム自体が有名であったため、参加者以外にもイベントHPページへアクセスする一般ユーザーが多く、企画協力・明海大学」という関係性が広く認知された。同様に、2018年9月に実施したトレーディングカードゲームの総合フェス、TCGフェス「ティバル」でも、チケットに「企画協力・明海大学」のクレジットが表記され、イベント当日もステージで大学の名前を出すなど十分にアピールを行った。イベント内ではカードゲームの学生対抗戦が行われたが、当然ながら明海大学チームも出場。巷でeスポーツの存在感が増す昨今「遊びと言えど、スポーツのような感覚で行われているカードゲームの分野で名を知らしめることは、十分な大学の認知度向上につながる」と鮫島氏は語る。

さらに今年の明海祭では、学園祭実行委員会と企業がタイアップ。トレーディングカードゲームのイベント「カードゲームアカデミー2018」が開催された。本イベントは他大学横断で展開しているものだが、こうしたイベントを大学で開催することにより、「流行りの遊びに協力的で、面白いことをやる大学」というPRにつながる」と鮫島氏。今後もエンターテインメントの分野から明海大学の認知度を上げる企画を仕掛けていくという。



経済学部支部代表をつとめる鮫島伸一氏

不動産学部支部（緑風会）サポート事例

不動産学部支部では、ブランディングサポートを行うにあたり、まず学部長にヒアリングを行った。その結果、受験生減、学生数減という現実を改めて直面することとなる。そこで同支部では、オープンキャンパスに訪れる来場者を増やし、最終的には不動産学部を志望してもらうところまでを目標に掲げ、大学選びに迷う学生をターゲットに「レッドカーペット大作戦」と名付けたプロジェクトを発案。進路に悩む学生に寄り添い、レッドカーペットを歩いているかのごとくオープンキャンパスに来てもらうというのがネーミングの由来だった。

本プロジェクトでは、チラシ、特設サイト、PR動画、QRコード付きノベルティ（付箋）の4つの誘引ツールを作成し、将来について決められない、何を学びたいかわからないと



不動産学部支部代表の小畑晶也氏（左）と小野文章副代表（右）

いう学生にターゲットインク。多岐に渡った分野を学べる不動産学部は将来的にも非常に勧めだという点をアピール。高校訪問で配布が見込まれるチラシとノベルティで特設サイトへ誘導、サイト上で、不動産学部のオープンキャンパスを訪れば自分の適正や就業の可能性について知ることができ、さまざまなことが《明快》になる」と訴えた。作成された誘引ツールはどれもユニークでインパクトがあり、中でも普段使いできるノベルティの付箋は評判が良い。

付箋の配布が好評であることについて、支部代表である小畑晶也氏は「明海大学の認知度を上げるファーストステップとしてひと役買っているのではないかと話す。

現在はこれらのコンテンツを使って種をまいている状態だが、今後は情報発信の目玉となるPR動画やSNSで露出を増やし、オープンキャンパスの来場者数の増加、ひいては入学者数の増加を目指していく。



CONTENTS 02 ALUMNI MEETING

ホームカミングデー

明海祭期間中の11月4日、浦安キャンパス同窓会ホームカミングデーが「ニューマリンス」にて開催された。昨年までの「同窓会パーティー」という呼称から、今年新たに「ホームカミングデー」と名を改めた。その名の通り卒業生が母校に帰る日、まさに帰省のようなイベントというわけで、卒業生だけでなく配偶者や子どもたちまでが参加の対象となっており、この日の来場者は200人超となった。

平松健太郎同窓会副会長による司会でパーティーは進行。毎年ながら若い大学らしく参加者も若～中年層の現役世代が

多く、ざっくばらんな雰囲気。各テーブルでは恩師の先生方も交え思い出話や互いのビジネスの話で大いに盛り上がっていたが、殊更にぎやかだったのがベビーカーの乳幼児やママたちのグループ。この風景も、若い本同窓会の特徴がよく表れている。子どもたちは早くから両親の母校の空気に触れ馴染んでいる様子であった。

その中で、今年新たに行われた企画がクイズ大会。会場に流れる映像を見ながら設問に答えていくもので、回答や当選発表はなんとスマホのLINEによって

アルタイムに行っていくという趣向。司会者の管理アカウントにどんどん寄せられる沢山の回答から、スマホのスクロール機能を利用してルーレットのように当選者が決められていく。スマートスピーカーや学園祭で使えるチケットなど、素敵な景品が当たるといことで、この時ばかりは参加者の方々はどなたも飲食の手を止めクイズに集中。新たな企画も生まれ例年以上に大いに盛り上がりを見せた「ホームカミングデー」となった。



海外遠征&トレーニング

卒業したことで國府田監督が率いる大学のヨット部から離れることになったが、國府田監督の紹介により、北京オリンピック7位入賞実績を持つ日本トップクラスの選手である松永鉄也氏がコーチに就任。チームがオリンピックを目指す体制が整った。目指すは世界…ということで、海外での主要大会やワールドカップへの挑戦が続く。2017年10月蒲郡大会、2018年2月マイアミ大会、4月イェール大会、6月マルセイユ大会、9月江の島大会、そして2018年8月には4年に一度開かれるワールドチャンピオンシップ（オランダ）にも出場と、経験と実績を積み上げていく。最終的なオリンピック出場については、2019年の各大会成績を参考に選出されることになる。

チームの様子をコーチに伺うと「ヨットのチームは息のぴったり合うコンビに限らず、それぞれ個性の違う組み合わせのチームが好結果を生むことがある。一般にスキップが艇長で主導権を持つと言われるが、実はチームごとパーソナリティの組み合わせでその関係性は様々。この2人のチームはクルーの西代も思ったことを主張するので、面白い結果が出そうな気がしている。2人があまりにもぴったり合い過ぎると「1+1=2」という単純な足し算で終わってしまいが、違った個性がかみ合うことによつて、より以上の相乗効果と可能性が広がるという事は、私自身も選手として様々なチームを見て実感してきた」とのこと。

ヨットは風を受け走る競技だが、集団で走るので位置によってライバルの風を奪う…という戦略もある。スタートでい

コーチに聞く2人のポテンシャル

2020東京オリンピックのセーリング競技会場は前回の1964年東京オリンピックと同様、ここ江ノ島。彼女たちは本番試合会場となるこの海で、コーチとともに日々厳しいトレーニングを続けている。



松永鉄也 (まつなが・てつや)
同志社大学卒
北京五輪ヨット男子470級7位入賞
株式会社グッドヘルム代表取締役

林 優希 (はやし・ゆうき)
明海大学卒
セーリング日本代表強化選手
明海大学職員

西代 周 (にしだい・ちか)
立命館大学卒
セーリング日本代表強化選手
明海大学職員

CONTENTS 03

明海から世界の海を目指す

—明海大学女子ヨットチームの挑戦—

強豪として知られる明海大学体育会ヨット部は、國府田由隆監督指導の下、今年度も「関東学生ヨット春季選手権大会女子レース」で470級・スナイプ級両クラス1位で総合優勝を果たすなど、相変わらずの快進撃を続けている。そのヨット部出身の選手で、来たる2020年東京オリンピックをターゲットに練習を重ねている明海大学女子ヨットチームを、神奈川県江の島ヨットハーバーに訪ねた。



チーム誕生

彼女たちが操るのは470（ヨシナナマル）級というクラスで、その名の通り全長470センチの船体に、メインセイルと舵取りを担当する「スキッパー」と、船の傾き調整とジブセイルの操作を担当する「クルー」の2人が乗り組む。2人の体力のみならず、なにより息の合ったチームワーク、テクニク、そして風、波、潮を読む頭脳プレーがものをいう競技。1996年アトランタオリンピックで女子が銀メダル、2004年アテネでは男子が銅メダルと、日本がオリンピックでメダルを取った唯一のクラスとして、日本人の活躍が最も期待されるセーリング競技といえよう。ちなみに、ウインドサーフィンがオリンピック種目になってヨットレースに統合された結果、ヨット競技ではなくセーリング競技と呼ばれるようになっていく。

経済学部卒の林優希選手は、在学中から有力選手としてチームの活動をリードしていたが、卒業にあたってオリンピックを目指す選手として大きな障害に出会うことになる。いわゆるメジャースポーツと比して、社会人選手として活動を続けられる環境はなかなか整わないのだ。この苦境を打開するため、大学と同窓会がバックアップ態勢をとった。練習環境や設備面の支援を行うと同時に、林選手を職員として大学に在籍させ、さらにもうひとり、本種目の有力選手として注目されていた立命館大学の西代周選手を、同じく明海大学職員に迎えることにより、ここに新たなチームが誕生したのである。



かにはいい位置につけライバルの進出を食い止めるかなど、戦略的な駆け引きが非常に重要な要素となってくる。その意味で単独練習だけでなく、何艇かの集団での練習機会も重要だ。ワールドカップシリーズの主会場であり、2020東京オリンピックの本会場となる江ノ島ヨットハーバーには、数多くのチームが練習ベースとして利用しており、互いに誘い合っでの合同練習も行いやすい環境でもある。

チームは大会へのエントリー時以外は日曜日も含めほぼ毎日のように練習を行っている。同窓生の皆さまも、ひとつ江ノ島への行楽がてらヨットハーバーに立ち寄り、2020に向け夢を追いかける後輩を応援することで、「見る」だけでなく「共に参加する」2020東京オリンピックとしてみてはいかがだろうか。

目印はオリンピック指定強化選手の証であるセールの日の丸に「MEIKA」と大学ロゴの入ったヨット、そして何より、真摯に夢を追う2人の姿だ。



CONTENTS 04

2019年4月 保健医療学部誕生



口腔保健のプロフェッショナルへ

2019年4月、浦安キャンパスに14年ぶりとなる新学部「保健医療学部口腔保健学科」が誕生することになった。最大の特徴は4年制大学における歯科衛生士養成課程であり、東日本の私立大学では初のケースとなる。

超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、歯・口腔分野は従来の治療医学はもろんのこと、予防医学がフォーカスされてきている。また、近年では歯・口腔と全身の健康の因果関係に注目が集まりつつあり、健康増進の観点からも歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を担う歯科衛生士のニーズは大いに高まっている。

それを裏づけるように、平成28年度の歯科衛生士の全国求人倍率は過去最高の20.5倍で、年々増加する需要に対して歯科衛生士の育成が追いついていないことが現状である。

一方で、東日本で歯科衛生士養成に係る学部学科等を設置している大学は、国公立の3校のみであり、歯科衛生士の養成は、専門学校や短期大学を卒業して国家試験を受けるケースが多くを占めていた。これらの状況を踏まえて、今後ますます必要になってくる歯・口腔分野のプロフェッショナルの養成、さらには当該分野の多様化・高度化を見据えた教育研究を目的とする4年制の「保健医療学部口腔保健学科」を開設する。

CONTENTS 05 支部レポート

日本語学科支部

10周年とこれから

代表 升谷旭杜

11月4日に行った今回の日本語学科支部の同窓会は10周年目の節目でした。前代表、前々代表にお言葉を頂戴し、10年という時の重みを実感しております。

日本語学科支部では、毎年同窓生が集まる同窓会パーティーを行っています。同窓生が年に一度集まり、旧交を温める場を作れるように、準備、実行をしています。

また、昨年度には同窓生のメーリングリストを作成し、日本語学科支部の情報をダイレクトに届けることができました。今後の日本語学科支部としては、同窓会パーティーだけでなく、同窓生と現役学生の交流ができるようなイベントを企画実行していきます。

日本語学科メーリングリストに登録していない方はnihongo.meikai@gmail.comまでご連絡を!!!

明英 (英米語学科支部)

懇親パーティー報告

代表 川部 翔

今年度も恒例の懇親パーティーを6月23日に、ホテルエミオン東京ベイにて行いました。今回は名誉教授の小池生夫先生よりご講演をいただきました。お話を通して、明海大学の英米語学科が、先生方を中心に、日本の英語教育200年の大きな流れの中でどのようなことを取り組まれたのか、ということ再確認することができました。卒業生として、大学時代に学んだことをより深めながら、最新の事柄についても積極的に学び続けることの重要性も痛感しました。

今年度も終わりに向かってまいりますが、2月には恒例の教育セミナーを実施します。会員の皆さまの学びにつながるよう、理事一同で運営をしております。引き続き、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

中国語学科支部

今年の懇親会は2月10日

代表 川島信一

今年度もオープンキャンパスへの役員派遣、HSK補助と懇親会の3つの事業を行っております。

毎年旧正月の時期に行う懇親会ですが、今年度は2019年2月10日12:30からに決まりました。

卒業生同士のコミュニケーションにお役立てください。詳細はハガキにてご案内いたします。

経済学部支部

同窓会の存在意義と役割を考えたい

代表 鮫島伸一

経済学部支部では、昨年度に続き、大学PRに繋がる活動を、大学や学生と協力して、産学連携プロジェクトとして推進致しました。詳細は、別紙経済学部支部会報をご覧ください。

また今年度より、ホームページ上での卒業生の仕事紹介企画を進める予定です。ユニークな仕事をしている方、インタビューOKの方、是非、ご協力をお願い致します！経済学部支部も8年目を迎え、1期生も50歳前後になり、社会の中での役割も、みな重要になってきていると思います。次の世代に何が残せるか、何を残すべきか、そんな視点で今後も活動をしていきたいと思っています。

緑風会 (不動産学部支部)

Wakka (ワッカ) はじめました！

代表 小畑昌也

緑風会では、同窓会活動に特化したSNSサイト「Wakka」の試験的導入を開始しました。

本サイトは、笑屋株式会社が運営するコミュニティサイトで、各種イベントの出欠管理に留まらず、登録した卒業生同士の交流やビジネス情報の交換に効果的なSNS仕様となっています。既に他大学や明海大学歯学部でも本格的に導入され、交流の促進に繋がったと大変好評を得ているコミュニケーションツールです。

卒業生限定のSNSになりますので、ご興味のある方は、①Wakka登録希望の旨と、②学籍番号(若しくは卒業年度)、③氏名を明記の上、下記にある交流委員会アドレスまでメール頂ければ登録方法をご案内します。他学部の卒業生でもOKです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

緑風会交流委員会アドレス：r.kouryu2015@gmail.com

Wakka HP <https://wakka.io/about/>

緑風会HP <http://www.meikai-rea.jp/> 『明海 緑風会』で検索

明翔会 (ホスピタリティ・ツーリズム学部支部)

10周年記念パーティーを開催します

代表 鈴木 香

明翔会も皆さまのお陰で10周年を迎えることが出来ました。記念のパーティーを2019年2月に開催致します。盛大なパーティーを企画していますので、学生時代を思い出しながら楽しく集まりませんか？近況報告の場としても最適です。1人でも多くのご参加をお待ちしています。参加のご連絡は招待状より、またはSNSにてよろしく願いいたします。

また、昨年に引き続き卒業生インタビューもFacebookに掲載しています。今年はInstagramとTwitterも連動させましたので、

皆さまの使いやすいつツール是非ご覧ください。



CONTENTS 06 MESSAGE

恩師からのたより



経済学部教授 中嶋 隆一

いよいよ平成も来年で終わりを告げ、新たな時代が始まろうとしている。私が本学の経済学部へ赴任したのもちょうど昭和から平成に移った時期で、また時の潮目に遭遇することになるのだろうか。平成元年(1989年)から30年務めてきたが、これを機に、少し赴任当時の本学の状況を振り返ってみたいと思う。

当時の浦安キャンパスは、前年(1988年)に新設されたばかりで、当然学生数は少なく、浪人を経験した学生も結構在籍していた。そのため、そうした学生達にとっては比較的年齢の近い若手教員の一人として、私自身、彼らと和気あいあいのムードの中で新しい大学造りの一端を担っていたように思う。学生達も同様の自負を共有し、勉学や部活・サークル立ち上げに積極的に思い起こせば、将来のリーダー的存在になり得る優秀な人材が多々見受けられた。現に、今年(2018年)には、ゼミ3期生のOBが東証2部上場企業の新社長に選任されたことを知り、その思いを強くしたところである。

あれから30年。今では信じられないだろうが、当初は管理・研究棟4Fの研究室から海の景色が眺められ、のどかさを感じ

たものである。それが現在では近隣に大型ショッピングセンターやマンションが立ち並び、かつての面影は一変した。同時に、世の中にはIoT (Internet of things)、人工知能(AI)、ビックデータという3つの要素を駆使した『第4次産業革命』とも呼ばれる新たな時代に入り、時代の流れが急速化している。

大学は、その時代の波に乗り遅れないようつねに人材育成と学生の教育の質の保証を世に問われ、本学(経済学部)も例外ではない。そのため、学内では2015年から新カリキュラムを導入し、時代のニーズに合わせたコース制の採用(グローバル経済コースとグローバル経営コース)と2年次から3年次への進級要件を設けている。2年次までの資格取得(経済学検定Bレベル以上または日商簿記2級レベル以上)を学生に奨励し、基礎学力の向上を目指す。経済学部の特徴をどのように際立たせ他大学との違いをアピールするか、正に正念場である。

学外ではOB・OG諸君の活躍が大学の評価に繋がる。時の変わり目を転機として、これからも大いに羽ばたき、人生を謳歌しながら活躍してもらいたい。

CONTENTS 07 REPORT

セキュリティの関係上、ホームページには公開致しません。

TOPICS

サマーキャンプ

在学生・教職員合同で活発な議論

9月5日と6日の2日間、群馬県渋川市の伊香保温泉で浦安キャンパス学友会サマーキャンプが実施された。これは日本人学生、外国人留学生、教職員等が互いの連帯感と本学への帰属意識を深め、ともに本学を発展させることを目的に毎年実施されているもので、学生・教職員ら約140人、また、同窓会からは、升谷旭社理事が参加した。今年は「つながり」をメインテーマに、1日

目に分科会、2日目に報告会が行われた。

分科会では少人数のグループで「課外活動の活性化について」「学年交流について」「明海大学の魅力について」の3つのテーマに分かれて意見交換を行い、それぞれのテーマに基づく企画の検討と企画を告知するポスターの作成を行った。その後の懇親会では、夕食をとりながら、学生、教職員の垣根を越えて親睦を深めた。報告会ではテーマ別に発表が行われ、各班で考えたテーマに基づく企画が提案された。中には、来年度の学園祭で実施してみたいとの意見が出るなど、具体的な動きが見込まれるものもあった。

参加した学生からは、「普段交流する機会の少ない外国人留学生、他学科の学



活発な議論が交わされた分科会

生、教職員と話すことができる貴重な機会となった」「さまざまな視点からの意見を聞くことができ、とても有意義だった」「明海大学の『つながり』を深めることができた。また来年も参加したい」といった感想が聞かれ、どの学生も充実した2日間を過ごした様子がうかがえた。

REPORT

2018年度代議員会

5月12日、浦安キャンパスにおいて、2018年度同窓会代議員会が開催され、代議員41人と教職員15人が出席した。北原淳同窓会会長と安井利一学長の挨拶の後、同窓会の事業報告や決算報告、新役員への選出、新年度事業計画、予算案などが審議、承認された。2018年度会長には、引続き北原会長が再任された。

また、ブランディングサポートプロジェクトの進捗状況について報告があった。



CLUB

2019年体育会女子バレーボール部設立

学校法人明海大学は株式会社姫路ヴィクトリーナと連携し、2019年4月に女子バレーボール部を設立することになった。

設立に先立ち、2018年7月24日、明海大学とプロバレーボールチームのヴィクトリーナ姫路は、ともに協力して、地域における学術、文化、スポーツの活動を通じて、



本学客員教授に就任した眞鍋政義取締役ゼネラルマネージャー（右）

有為な人材の育成とより豊かな地域社会の発展に寄与することを目的とし、連携協力協定を締結した。

ヴィクトリーナ姫路は、全日本代表女子バレーボールチームの前監督である眞鍋政義氏が取締役ゼネラルマネージャーを務めるチームで、関東初の「ヴィクトリーナ姫路連携チーム」となる明海大学女子バレーボール部の強化方針を策定する。

CLUB

陸上競技部

陸上競技部は、同窓会の皆さま、教育後援会及び大学関係者の皆さまのご支援の下で、体育会に所属し、2年目を迎えました。今年4月からは藤巻理奈コーチをスタッフに加え、新たな体制でスタートしました。5月の関東インカレでは男子走幅跳・女子

400m・女子ハンマー投の3種目で8位入賞、6月の日本学生個人では女子400m・女子ハンマー投に出場、女子400mでは4位入賞を果たしました。9月の日本インカレでは女子400m・女子ハンマー投に出場し、女子ハンマー投では予選14位（予選12位までが決勝進出）と決勝進出まであと一歩のところまで行くことができました。10月のU20/U18日本陸上競技選手権U20女子ハンマー投に出場し8位と8cm差の9位という結果でした。全体的に昨年度より成績を上げることができましたが、今年の冬は

更なる飛躍を求め、トレーニングに励みます。体育会長をはじめ大学関係者の皆さま、陸上競技部OB・OG皆さまのご声援に応えられる様に、これからも頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。（監督 川幡俊行）



CLUB

女子硬式庭球部

今年度は1年生1人の入部があり部員は6人、昨年からのメンバーも残り、経験や実績を備えたチームでスタートとなりました。4月に行われた個人戦では、本戦に出場して勝ち進み、全日本大学テニス選手権

TOPICS

コミュニティサポート事業

【明海大OBウィナーズ】参加人数：22人

浦安市春季市民体育大会ソフトボール競技へ参加。



【北村オヤジの会】参加人数：30人

2000～2001年度卒業生からなる、BBQ同好会。毎年浦安市総合公園にてBBQを行なっています。



CLUB

サッカー部



サッカー部は今年で創部31年目を迎えました。OB・OGの皆さまには馴染み深いサッカー部のエンブレムですが、由来や経緯はご存知でしょうか？1991年に千葉県大学サッカーリーグに正式に参戦が決まり、それに合わせてユニフォームを新調し、エンブレムを作成してくださったのがOBの吉川

へ出場が決まりました。女子硬式庭球部として14年ぶりの快挙となりました。本戦出場へあと1勝と迫る選手も増え、手応えを感じリーグ戦へ臨みました。リーグ戦予選では日本女子大学を下し、本戦進出。本戦1回戦で成蹊大学に3-4で敗戦し昇格の道が途絶えてしまいました。OB・OGの皆さま、ご父母の皆さま、応援に駆けつけていただき感謝いたします。毎年、学生の成長を楽しみに観戦していただきありがとうございます。



来年こそは、関東大学テニスリーグ4部昇格ができるよう、各自が目標を持って1年間頑張っていきたいと思っています。（コーチ 小泉順一）

【明海大OBウィナーズ】参加人数：22人
浦安市春季市民体育大会ソフトボール競技へ参加。

CLUB

空手道部

空手道部は、同窓会の皆さまをはじめ、教育後援会及び大学のご支援のもとで、体育会に所属して12年目を迎えました。今年度は男子主将大塚虹希・女子主将伊藤瑞姫（ともに経済学科4年）を中心に、昨年



正照さん（2期生）でした。エンブレムのデザインは、当時、購買で販売されていた本学オリジナルグラスにデザインされていたマークを元に、日本リーグの強豪「読売クラブ」のエンブレムを参考にして作成されたそうです。ユニフォームのメーカーも、最初はプーマ・アンブロ・ミズノ・そして現在のアディダスと、時代によって刻々と変化してはきましたが、このエンブレムだけはどの時代も変わらぬ素材・デザイン・大きさをユニフォームの胸に必ず刻まれてきました。吉川さんは「エンブレムの制作に携わった者として、これだけ長い期間使用していただき光栄です。これからもずっと後輩たちに受け継いでもらえたらと思っています。また、創部以来の悲願である関

REPORT

文化団体表彰

明海祭で展示発表を行っている文化団体の活動目標となれるようにと始めた「文化団体表彰」の発表&表彰式が、明海祭最終日の11月4日に行われた。

最優秀賞には今年も茶道部が選ばれた。展示と実演場所を分け、それぞれの箇所での説明等に評価が集まった。

また、優秀賞にはホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・ツーリズム学科、同窓会賞にはMemoriesが選ばれた。



度の成績を上回ることを目指し、総勢36人（男子部員27人・女子部員9人）が精神面・技術面等の強化を図り、日夜稽古に励んで来ました。しかし、今年度の成績は、昨年度を上回るような成績を残すことができず、非常に悔しい1年となってしまいました。しかし、チームの雰囲気は年々良くなってきています。次年度に向け新チーム体制となり、より一層チーム力の向上と精神面・体力面、技術面等を強化し、個人戦・団体戦ともに今まで以上に良い成績を残せるよう精進いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（監督 上田 航）

東大学サッカーリーグのステージで、このエンブレムを身につけた選手・スタッフが躍動する姿を観せてくれることを楽しみにしています」とおっしゃっていました。エンブレムにはサッカー部OB・OGや大学関係者の皆さまのそういった願いが込められていることを切に感じながら、創部以来の悲願達成に向けて邁進していきたいと思っています。（監督 八津川義廣）



2018年最終節を勝利で終えた4年生たち